

# 山口・周防国府跡

すおうこくふ

1 所在地 山口県防府市国衙三丁目

2 調査期間 第一三五次調査 二〇〇二年(平14)三月

3 発掘機関 防府市教育委員会

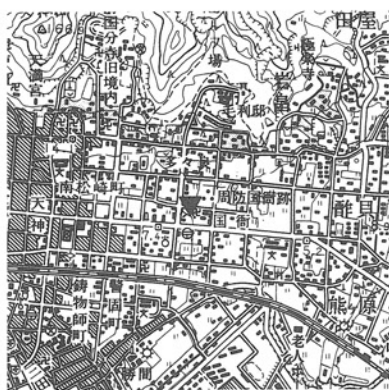
4 調査担当者 原田光朗

5 遺跡の種類 官衙跡

6 遺跡の年代 古代～中世

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

調査地は史跡指定地「周防国衙・二町域」の南西隅に西接する水田であり、マンシヨン建設予定地の建物部分約三二〇㎡を調査対象地とした。



(防府)

検出した主な遺構は、掘立柱建物一棟、掘立柱塀一条、井戸一基、自然河川などである。遺構の時期は、木簡の出土した井戸SE八二九〇と掘立柱塀が一五世紀初頭、掘立柱建物が一五世紀前半頃である。調査区

東では、国府政庁設置以前から存在していた自然河川SD八二〇〇の西岸を検出した。周辺の調査結果を勘案すると、政庁の西は緩やかな谷状地形を呈し、小河川が発達していたと考えられる。

木簡の出土した井戸SE八二九〇は、木枠組の井戸側を設置し、水溜に曲物二段が据えられていた。埋土は、三層に大別され、中層から下層は黒褐色粘質土と灰褐色砂の互層となっており、木簡は下層から出土した。木製品のほか植物遺体や小動物の骨も見つかっている。

8 木簡の釈文・内容

(1) ・「符籙」。急□如律令」

・「いにた。つ」

137×28×3 011

木簡は、中央やや上に木釘が打ち込まれた状態で出土した。なお、釈読にあたっては、京都学園大学の八木充氏のご教示を得た。

9 関係文献

防府市教育委員会  
『平成一三年度 防府市内遺跡発掘調査概要』(二〇〇三年)

(原田光朗)

